

第20回あわらし子ども・子育て会議録

1 日 時：令和3年3月19日（金）19時15分～20時20分

2 場 所：あわらし市役所 101会議室

3 出席者

(1) 委員

森俊之委員（会長）、西川清美委員、中嶋千津委員、五十嵐美根子委員、高橋望委員、畑中光委員、清水則隆委員、渡邊一幸委員、先川原八千代委員、野尻都希子委員

《欠席者》番匠裕美子委員、

(2) 事務局

《子育て支援課》

中道佐和子課長、村中直子課長補佐、村中喜恵課長補佐、小林拓巨主査

4 議題

(1) 令和3年度 各認定こども園定員について

(2) 子ども・子育て支援事業計画への母子保健分野の項目追加について

(3) その他

5 承認事項

会議の経過

○事務局 (開会あいさつ)

○会長 (あいさつ)

○事務局 ここからは規定により、森会長に議事進行をお願いいたします。

○議長（会長）議題に従い、進行する。はじめに、協議事項(1)令和3年度各認定こども園の定員について、事務局より説明をして下さい。

○事務局 **【協議事項(1)について、資料に基づき説明】**

○渡邊委員 芦原小学校区と北潟小学校区、金津小学校区で充足率が下がる見込みとの説明だったが、今後の出生に関しての見込みと比較するとより先が見込みやすいのではないか。それがないと定員変更はすごくやりにくい。認定こども園にとって、定員変更はすごく重要で、この資料を見ると北潟こども園は、定員変更をしないと

すごく苦しいのではないか。そう考えると数年先を見込んだ算定をしていかないと。今回は金津東こども園のみの定員変更のみとなっているが、定員によって委託費の金額も変わってくるので、芦原小学校区や北潟小学校区もしっかり見ていかないと手遅れになってしまうのではないかという印象を受けた。

- 事務局 補足説明。令和3年度中に芦原小学校区、北潟小学校区、金津小学校区で定員変更を考えており、児童数の見込みをもう少し具体的に出して、定員変更に対する思いも各園異なると思われるので、対象となる地区の園で話し合う機会も設けながら、定員変更案を作成したいと考えている。時期的には夏ごろまでに案をまとめて、子ども子育て会議にお示ししたい。実際、金津地区の私立園からも来年、定員変更を考えているという話はもらっている。
- 議長（会長） 今回、金津東こども園のみの定員減という形で提案されているのは、金津東は園の意向として定員を減らしたいという方向で話が進んだからという理解でよいか。
- 事務局 今回は令和3年度中に変更ということではどうかと調整してみたが、園の意向として、令和3年度当初からの定員変更をお願いしたいということだった。金津東こども園は区域でいうと、1園のみなので、園の意向も尊重すべきということで、提案をさせていただいた。
- 事務局 金津東こども園は地区に1園のみのため、広報紙などで出生の数なども把握しており、入園見込みなども予想ができています。早めに減らしたいということの申し出があったため。
- 議長（会長） 今回は金津東こども園のみの定員減という形で提案されているが、来年度は、金津小学校区、芦原小学校区、北潟小学校区でも定員変更をする方向でいる。予定では、夏ごろまでに各区域の園に出生数などの見込み数も資料として示して、区域ごとの調整を行いながら定員数を決めていくということになる。
- 議長（会長） 繰り返しになるが、今年の夏ごろまでにそれぞれの学区ごとに定員数を決めていくために、これから調整していただくこととなる。それに先立って金津東こども園は令和3年4月1日付で定員変更をするということについて、この会議として了承してよろしいか。
- 委員全員 了承。
- 議長（会長） 協議事項(1)については、原案どおりで。続いて、協議事項(2)

子ども・子育て支援事業計画への母子保健分野の項目追加について、事務局より説明をして下さい。

- 事務局 【協議事項(2)について、資料に基づき説明】
- 議長(会長) ただいまの説明について、質問でもあれば。
- 議長(会長) 乳児健診受診率の目標値だが、なぜ99%か。微妙に感じる。
- 事務局 100%でもよいのだが、疾患を持っていて入院中などで、健診に来られないというケースがどうしてもあるため、この数字とした。
- 議長(会長) その理由であれば、1歳6カ月児健診なども99%とすることになる。
- 事務局 乳児ですと、1カ月、4カ月、10カ月のお子さんが対象となるため、生後1カ月辺りではどうしても入院中などで受けられない人が含まれることになる。100%は難しいかなと思い、99%とした。ただ、目標ですので、100%でも構わない。100%とさせていただきます。
- 議長(会長) 目標ですから。
他にございませんか。
- 渡邊委員 喫煙率のところを見ると、目標値まで20%で各年度変わらないが、どのように読み取ればよいのか。
- 事務局 これは、国の最終目標値が20%で、できるだけ早くここに近づきたいということで、このような数字を入れている。
徐々に下げていく形の方が自然か。
- 渡邊委員 よくわからないが、一定の割合で下げていく方が自然なのか。
一定の割合、20%はやめられない人たちということか。
- 事務局 国の定めている目標値が20%なので、国が20%はやめられないと考えている可能性はある。また、あわら市の現状では32.9%で、国の目標値よりもだいぶ悪い。せめて、できるだけ早く20%にという思いがある。
- 渡邊委員 父親の喫煙率だけ書いてあるが、場合によっては母親の喫煙率というのものもあるのではと思う。そのあたりはどうか。
- 事務局 母親の喫煙率というのもの、一応、国の指標には上がっている。ただ、あわら市では国の目標値4%に対して令和元年に3%と国の目標値を達成しているため、今回、目標値としては上げていない。
- 渡邊委員 育児期間中というのはいつからいつまでを言うのか。
- 事務局 この場合、国の指標についての調査時期が、生後5か月、1歳

半、3歳となっているので、その期間ということになる。

○議長（会長） 父親の喫煙率はかなり多い印象。どうか。全国的にはどのくらいの数字か。

○事務局 全国的には平成29年だが37.7%となっている。

○事務局 どうしても、昔からの煙が出るタイプのものはだめだと思われるようだが、電子タバコなど、煙のでないものなら大丈夫と思っている人がいる。そのため割合が高くなる。

○議長（会長） 他に質問などないか。

○渡邊委員 出生率をみると、福井県は全国と近いところにあるが、あわら市は残念ながらだいぶ下がっている。色々今までも取り組まれていると思うが、さらに何か取り組まれることはあるか。出生率がどんどん下がってくると、先ほどの定員変更などの必要性がさらに加速する。なおかつ雇っている保育教諭をくびにしていかななくてはならなくなる。出生率が下がるということは園の運営に影響がある内容。我々も含めて頑張らなくてはならないが、何かまた、今言葉で言えないので、ぜひ取り組ませてもらえればと思う。

○事務局 一つ、どこの市町でもそうだが、婚活はすでに色々な形で行っているが、移住定住の部分でも新婚の人が定住する場合に補助金を出すなど、若い人が結婚してここに住んでもらえることも現在、施策的に取り組んでいる。なるべく若い人、子どもが持てるような人の支援というのでも取り組んでいきたい。

○渡邊委員 県外からの移住者に対して補助をするなど、そういったこともされているということか。

○事務局 している。

○議長（会長） なかなか厳しい。何が少子化の要因となるのか。色々な説があるが。子育て支援事業としての部分は比較的充実している。それだけで少子化は解消できない。難しい。

○事務局 若い世代の定住は難しい。結婚等で近隣の坂井市、福井市に移住してしまう人もいる。それを防ぐような手立ては必要だと市内でも認識はしている。

○先川原委員 小学校や中学校レベルでの、ふるさとの良さを子どもたちに伝えていくといったふるさと教育が重要となるのでは。

○議長（会長） 戦略的にどうしていくかということだが、昔ながらの3世代同居や伝統的家族観が一時期良いと言われつつ、一方ではそうではなく、一人でも子育てできるような環境を整えていく、それ

こそ結婚せずに子どもを産むことについても支援していくほうが良いと言われていて、そちらの方向で取り組んでいる自治体もある。結局、あわら市が何を目指していくかということにもなる。そういうことを話し合う会議もあるのか。次世代育成支援の会議の時代にはそういったことも大きな議題の一つだったように思うが。

- 事務局 「生み、育てて」というのが基本理念にも入っているので、こういった議論はこの会議の中に入っている。これまでの会議ではあまり触れずにきている。その他で触れていただいても構わない。婚活などは子育て支援課ではなく、他課が行っているものだが、あわら市の行う事業全体に向けて意見をいただく必要はある。
- 西川副会長 新幹線ができる駅裏の地区の人口は、右肩上がり。ただ、結局は市内の村部からの移住などもある。若者がそこに出ているというのもある。地区的には人口も増えているし、子どもも増えている。学校は遠い。小学校の駐車場が少ないので、学校行事などでも台数が限定される。人口が増えている地区に対する対応が少し弱いように感じる。
- 議長（会長） あの辺りは校区でいうとどこになるのか。
- 事務局 金津地区になる。
- 西川副会長 金津小学校に100人くらい、この地区から子どもが通っている。小学校までが遠いし、今は新幹線の工事もしているため通学路も危ない感じ。具体的に何かしてほしいというわけではないが、例えば、児童数が減っている伊井小学校にバスで通うとか、画期的なアイデアがあってもよいのではと思う。発想の切り替えも必要かと思う。孫のことから色々と思う。校区のエリアを柔軟に考えるなど。
- 事務局 市内での他の地区からの人口の動き、減っているほかの地区からの流入があるのは事実で、アンバランスになっている面はある。
- 西川副会長 転入者もいると思う。新幹線ができれば、実際県外に通うことも可能になるので。
- 議長（会長） 身近なところから考えていくのは必要なことと思われる。
- 清水委員 アパートが増えているというのも一因と思う。結婚して、アパートに住んで、子どもができるとどちらかの親の近くに移住してしまう。空き家をあわら市がリフォームして、安く貸すとか。次から次へとアパートが建ってしまう。うちの近くにあるアパ

ートなども、子どもができた人は出て行ってしまう。若い世代が一時的に住むが、定住はしていない。家を買うにはお金がない。そこまで、何も考えていない。空き家をリフォームして、貸し出し、いずれは買い取れる方式にするのもよいのではと思う。空き家を市が代行して解体するというのも報道を見た。それよりは、有効に活用できたらよいと思う。

- 事務局 空き家を解体するケースは、危険なところに限られるが。なかなか買いたくしてもらえない所について、市が代行して後から費用を請求する形となる。
- 清水委員 アパートが増えているというのも一因と思う。結婚して、アパートに住んで、子どもができるとどちらかの親の近くに移住していく。市内の建築関係の事業者と空き家をマッチングして費用関係をどのようにするかは検討が必要だが、リフォームして貸し出し、または買い取りできるようにしていくとよいと思う。
- 事務局 使える状態の空き家も増えており、空き家バンクなどに登録してもらうことは市でも行っている。貸し出しなどの仲介はしているが、リフォームまではやっていない。
- 清水委員 お金が絡むことなので、難しいかもしれない。
- 議長（会長） 少子化対策について、自由な意見交換となっているが、今日は少子化について、結論は出せないが、今回の母子保健のことについて、意見はどうか。
- 渡邊委員 ひとつだけ。芦原側にいると生活は明らかに不便。湯のまち駅は近くにあっても、日常的な買い物はちょっと遠くまで行かなくてはならない。スーパーが近くにない。家を建てるお金は頑張っ出せずにしても、土地が高いとなかなか手が出にくい。若い人は土地の安いところを狙っていく。車があれば何とか暮らせても、学校が遠いのは大変とか、若い人の気持ちを汲み取った形で作戦を立ててやっていくとよいと思う。土地代の安いところに宅地を造成していくなど。なかなか大変だと思うが。
- 清水委員 土地の名義は簡単に変えられるのか。
- 事務局 なかなか難しいようですね。空き家で相続が絡むとたどるのが難しい。
- 議長（会長） 市内での移動もあると先ほど言っていたが、市外からの転入の状況はどうか。最近は転出の方が多いのか。
- 事務局 つい最近ですが、空き家バンクを見て、こちらに転入してきましたという人もいた。転入転出の割合でいうと、手続きの書類

受付の感じでは、そんなに変わらない感じがしている。

- 渡邊委員　　うちの園でこの春に4人、2世帯ですが、丸岡の方に転居する人がいます。非常に残念。お祝い金をもらったけれどもよその町に住むというパターンかと思う。
- 議長（会長）私自身、丸岡在住だが、なぜ丸岡なのか。電車の駅が遠かったり、そんなに便利でもないが。
- 清水委員　　出産祝い金の3人目と1人目を金額入れ替えるとか。3人目は基本、ただで色々なサービスが受けられるので。1人目の方が最初色々とかかる費用もあると思うので。思い切って入れ替えるのも一つの方法かと。
- 議長（会長）意外と何人も産む人は産んでいるというのは傾向としてある。2人目はお金がないとなかなか産めないというのもあるが、1人目に関しては生活のスタイルとかが関係していると思われる。
- 清水委員　　1人目に関する費用は多くかかる。例えばチャイルドシートとか。最初の投資という部分がある。
- 議長（会長）色々なアイデアをありがとうございます。他によろしいか。今後も、こういった話題は皆で議論していきたい。その他の部分にあたることを話していたが、議題（2）については意義ないか。
- 畑中委員　　この歯科の部分、3歳まではあまり歯医者へ行かないから50%となっているのか。
- 事務局　　おそらく、あわら市は3歳までの虫歯罹患率も低いためかと思われる。歯科に行く必要がないからかかりつけ医もないということになると思われる。
- 畑中委員　　一気に50%に上がる感じか。
- 事務局　　少し緩やかに上がっていくほうが自然か。
- 畑中委員　　虫歯はないが、定期的に園では歯科検診をやってくださっているが、1歳半くらいで一度歯科に連れて行ったら、泣くし、診れないからと言われたことがあった。また、内科だが、子どものことなので、小児科に連れていきたいがどこに行けばよいかかわからない。そういった情報がわかるとよいと思う。市内には産科もない。
- 事務局　　どこに行ったらよいかかわからないというのは、どこにあるかわからないのではなく、どこがよいかかわからない。
- 畑中委員　　母たちの口コミにはなるが、正直、小児科は今、わからないという声が多い。内科でも診てはもらえるが、子ども特有の病気

は小児科のほうが安心と思う。産科も小児科も市内にもっとあるとよい。

- 事務局 かかりつけ医を持つ親の割合（3歳児）は、歯科のほうも内科と同様にゆるやかに上昇していくように数値を調整する。
- 議長（会長） 緩やかに50%を目指すように調整する。現実的な目標とする。
- 事務局 数値調整後の表については、会議録とともに送付する。
- 議長（会長） 数値の調整は事務局に一任ということによいか。
- 委員全員 了承。
- 議長（会長） 他にないか。議題（2）については了解でよろしいか。
- 委員全員 了承。
- 議長（会長）（3）その他として、何かないか。
- 議長（会長） 全体を通して、何かご意見あれば。他になければ、これで終了としたい。
- 委員全員 了承。
- 事務局 （閉会あいさつ）